



# 多摩支部会報第67号

卒業生の皆さんの門出を（2025年3月31日発行）

# 力強く前へ

2024年度明治大学卒業式—2025年3月26日



新たに校友になる皆さんへ

多摩支部長 土屋栄一



卒業生の皆さんの門出を心からお祝い申し上げます。この門出にあたって、私から皆さんにお伝えしたい「思い」について、触れたいと思いますが、これまで、歴代の理事長か素晴らしい祝辞が寄せられています。私の思いと重なる点が多々あり、この歴代の理事長のお話をもって、私からの門出の「思い」とさせていただきたく存じます。

「これから社会に巣立つ皆さんにおかれましては、様々な試練が待ち受けております。物事が思い通りに行かず、辛い時でも、自分の考えや行動ひとつで、未来を変えていく事が出来ます。挑戦を諦めず、失敗を恐れず、明日からも強い信念と勇気をもって、前へ、と踏み出してください。そして、未来へと時代を切り拓いてください。母校の誇りを胸に、社会のため、他人のためにたくさんの汗をかいてください。」

そして、「本学で、培った「個」の強さと明大スピリットを武器に、自己研鑽を怠ることなく、前へ、世界へと大きく羽ばたいてください。」

今日から皆さんは、明治大学の校友になります。本学は、創立約140年の歴史を誇る我が国屈指の名門大学です。全世界で活躍している校友は、約59万人を数えます。東京の多摩の地には、2万5千人の校友がおり、この地に張り巡らされた地域支部は、21を数え、「明治はひとつ、3C（Contact Communication Consensus）で繋ごう多摩支部の絆」をスローガンに、校友の絆を深めております。社会に羽ばたく皆さんにとって、最も大事なことは、一学生び続けることです。皆さんの現在のお住まいの場所や赴任先にある「21の地域支部」のいずれかにご加入し、校友の皆さんとの交流を通じ、学校では学び得ない貴重な体験を皆さんの人生に加えてください。皆さんのこれからの「素晴らしい人生」を心から祈念いたします。

# 第16回 明治大学発祥の地 記念碑祭

(東京都南部支部主催、東・西・北・多摩支部共催)



明治大学発祥の地記念碑

明治法律学校（後の明治大学）は岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操の三人の創立者によって1881（明治14）年1月17日、麹町区の数寄屋橋の一角（現在の有楽町・数寄屋橋交差点近く）、旧島原藩上屋敷跡に開校しました。明治大学発祥の地記念碑は、明治大学の建学の精神を顕彰し、教育の近代化の道標を明らかにしようと、1995年11月2日、東京・有楽町マリオン前、数寄屋橋交差点のニュートーキョービル前の公園（千代田区有楽町二丁目）に建立し、千代田区に寄付したものです。



## 第16回 明治大学発祥の地記念碑祭 次第

開催日：2025年1月26日（日）  
場 所：明治大学アカデミーコモン

○第1部 講演会 11:00~12:50  
司 会：東京都南部支部 幹事 飯村 弘法  
開会の辞：東京都西部支部 支部長 小川 廣男  
主幹挨拶：東京都南部支部 支部長 大前 実之  
来賓挨拶：千代田区 区長 樋口 高頭 様  
来賓挨拶：創立者岸本辰雄先生の曾孫 岸本 幸雄 様  
（講 演）  
演 題：「《虎に翼》と日本国憲法」  
講演者：明治大学史資料センター所長村上一博  
○閉会の辞：東京都北部支部 支部長 三森 勲

○第2部 懇親会 13:00~15:00  
司 会：東京都南部支部 幹事 山田千洋 飯村弘法  
開会の辞：東京都多摩支部 支部長 土屋 栄一  
挨 拶：学校法人明治大学 理事長 柳谷 孝 様  
挨 拶：明治大学 学長 上野 正雄 様  
挨 拶：明治大学校友会 会長 北野 大 様  
挨 拶：明治大学連合父母会 会長 尾畑 彰一 様  
乾 杯：明治大学校友会 名誉会長 向殿 政男 様

○会食・懇談  
挨 拶：明治大学全国校友福井大会実行委員長 福井県支部 支部長 池田 亘 様  
校歌斉唱：明治大学応援団 露木 あみ様  
実行委員長 挨拶：千代田区地域支部長 大西 静士郎  
○閉会の辞：東京都東部支部 支部長 松村 正一

第1部講演会では、明治大学史資料センター所長・村上一博先生（法学部教授）による「《虎に翼》と日本国憲法」という演題のご講演を拝聴いたしました。「虎に翼」最後の講演ということで撮影の裏話など交えた楽しい講演でした。

第2部は、土屋多摩支部長の開会の挨拶で始まりました。来賓の学校法人明治大学理事長・柳谷孝様のご挨拶では、9回目の講演であるが、古典落語を聞くようで、毎回聞いても楽しい講演であることや、山の上ホテル、駿河台プロジェクトなどが今後の活動の中心になると話されました。

明治大学学長・上野正雄様のご挨拶では、60万人の卒業生を含め、「同心協力」の理念を進め、学生スポーツ、特に箱根駅伝には本腰を入れ、来年はシード権獲得、150周年時には優勝という目標で、150周年行事の一環と位置付けると話されました。

校友会長の北野大様はご挨拶で、講演を聞くのは5回目であるが、クラシックを聴くように毎回新しいものを感じることに。今後の校友会の在り方として、各支部が1支部ごとに活動するのではなく、他の支部と連携して活動できるよう進めたいと話されました。

懇親会（約140名参加）では、東京5支部（東・西・南・北・多摩）の皆さんで楽しく交流ができました。締めくくりは参加者全員が一つの輪になって校歌斉唱でした。

（記：江面利和）

# 地域支部だよりー青梅地域支部

文化の灯を点し続けることの大切さを実感

明治大学マンドリンOB倶楽部の演奏会、5年ぶりに開催



Meiji University Mandolin O.B. Club  
The Concert in Ome 2024

**明治大学マンドリンOB倶楽部  
ザ・コンサート in 青梅 2024**

日・時 令和6(2024)年12月14日(土)  
開演 午後3時30分開演  
会場 S&Dたまぐーセンター(1Fホール  
青梅市文化会館センター1階(青梅市文化会館))  
出演 明治大学マンドリンOB倶楽部  
主催 明治大学校友会 青梅地域支部  
後援 青梅市教育委員会

明治大学マンドリンOB倶楽部と青梅との縁には、特別なものがあります。

580席の劇場型ホールを備えた「青梅市民会館」が閉館したのは2017年3月のこと。

2年後の2019年4月に最大270席の平土間型ホールを持つ「青梅市文化交流センター」(S&Dたまぐーセンター)が開館しました。

実は、OB倶楽部には、2017年2月に市民会館の閉館記念コンサートを、また、2019年12月にはたまぐーセンターの開館記念コンサートをしてもらっているのです。しかし、2019年の演奏会の直後、コロナ禍に突入してしまいました。

2023年5月の「5類への移行」の後、青梅地域支部では次なる演奏会を検討し始め、2024年12月14日を開催日と決めました。

青梅では恒例化している明大マンドリンとはいえ、前回から丸5年というブランクは大きな不安を伴っていました。「お客さまは来てくださるのだろうか」ファンの皆さまも高齢化してきています。青梅地域支部のメンバーも同様に、鬼籍に入られた先輩もいらっしゃいます。チケットも値上げ必至の状況です。集客は不安でした。

が、そんな不安はすぐに吹き飛びました。たくさんの方々がチケットをお求めくださったのです。広告協賛、チケット販売代理、舞台製作などでの地域の方々のお力添えもありがたいことでした。

当日は、OB倶楽部の皆さんが「艶熟」と形容するにふさわしい名演奏を披露してくださいました。お客様がたは曲を口ずさみ、手拍子をし、お帰りの際には素敵な笑顔を見せてくださいました。青梅の地だからこそ開催できたと思える、価値ある時間となったのです。

西多摩で唯一の10万人都市でありながら、青梅市には現在、本格的なホールがありません。

建造計画はあるものの、オープンは早くても7~10年後の見込みです。

しかし、ホールがなくても、文化を大切に思う人々はたくさんいらっしゃいます。

青梅地域支部では今後も、コンサートの開催などを通じて、青梅の地に文化の灯を点し続ける一助になればと考えています。



## ○第一部 マンドリンで綴る思い出のメロディ

ゴッドファーザー・愛のテーマ  
映画音楽メドレー  
(旅情~第三の男~80日間世界一周  
~死ぬ程愛して  
~ロシアより愛をこめて)  
シャンソンメドレー  
(雪が降る~サントワミー)  
シボネー  
闘牛士のマンボ

日本レコード大賞メドレー  
(こんにちは赤ちゃん  
~今日でお別れ  
~襟裳岬~北酒場)  
みんなで歌おう  
・いい日旅立ち  
・学生時代  
・ふるさと  
赤とんぼ

## ○第二部 懐かしの昭和歌謡と古賀メロディ

お祭りマンボ  
昭和歌謡大ヒットメドレー  
(リンゴの唄~異国の丘  
~東京ブギウギ~悲しき口笛  
~青い山脈~銀座カンカン娘)  
時の流れに身をまかせ  
つぐない  
崑崙越えて

古賀政男傑作集  
(人生劇場~サーカスの唄  
~あ、それなのに~二人は若い  
~人生の並木路  
~誰か故郷を想わざる  
~東京ラブソング)  
悲しい酒  
湯の町エレジー  
影を慕いて

会場：S&Dたまぐーセンター

(記：村野 公一)

# 弾けた！ 多摩地区ボウラー達



冬の寒さも何のその、会場は熱く盛り上がりました。

三地域支部（三鷹・武蔵野・小金井）合同ボーリング大会開催



去る2月9日、三鷹・武蔵野・小金井の三地域支部合同ボーリング大会を、5年ぶりに「吉祥寺 dig ボウル」で開催しました。往年のマイシューズ、マイサポーター？等を身にまとったその姿は、プロボウラーそのもの！

そんな中、気を吐いたのが、武蔵野地域支部！12月の周到な練習ラウンドも功を奏し、お見事、団体優勝。江面多摩支部幹事長が助っ人の三鷹地域支部が第2位、前回優勝の小金井地域支部は油断したか、最下位に沈みました。

一方、個人戦は、激戦！大混戦！2Gのギャップが20ポイントは当たり前前、最大ギャップは、なんと64ポイント！そんな中、安定したスコアを並べた武蔵野地域支部の尾形さん、船木さんがワン・ツー・フィニッシュ！ *congratulation!*

ゲーム後の表彰式&懇親会もレーンごとに集まり、反省会も兼ねて大いに盛り上がり、懇親を深めました。皆さん口々に“またやりましょう”と聞かれ、とても濃い交流イベントになりました。

近隣地域支部の皆様！次回挑戦お待ちしております。（国分寺地域支部は、今回参加出来ませんでした。今回は参加させて頂き、優勝を目指したいとの事でした。）

（記：小金井地域支部 岩崎政典）



追い求める勇気があれば、すべての夢はかなう。

*All your dreams can come true if we have the courage to pursue them* 石井光太（立川地域支部 平成20・法）

## はじめに

立川市内で 弁護士をしています。今年で、弁護士歴 10 年少しといったいわゆる中堅になりました。

今年から、立川地域支部の幹事長を任されるようになり、多摩支部の集まりや他地域支部のイベントなどにも出席するようになりました。そんな中、私の母親のことを含めて原稿をとという話を頂きましたので、少し恥ずかしいのですが記事を書くことにしました。

## ○弁護士を目指したきっかけ

私は、父親とは生活をしたことがありません。私の母は、早稲田大学を卒業後、スペイン語を勉強し、考古学を勉強するため、「メキシコ大学」に進学していました。

私の父も熊本県出身ですが、メキシコで商売をしていました。両親は、メキシコで結婚しました。

その後、母親は、私を生むために日本に帰国し、そのまま離婚をしたそうです。

母親は、スペイン語の翻訳の仕事をして、私を育ててくれました。当時、翻訳という仕事は、徐々に海外に発注されるようになり、仕事が減っていったそうです。

そこで、母は、子供たちとの安定した生活を目指し、司法試験の勉強を始めました。母親がカセットテープで法学の講義を聞いていたのを覚えています。

ただ、母としては、仕事に、子育てと、なかなか勉強をする時間を取ることが出来ませんでした。更に、祖母が認知症になり、介護が必要な状況となって、母は司法試験を断念しました。そんな母親の影響で、私も弁護士を志すようになりました。

## ○明治大学に不合格？

春にしては暖かい日でした。私は、明治大学から不合格の通知を受け取り、神奈川県内の大学に進学する予定でした。そんな中、急に明治大学から封筒が送られてきました。封筒を開けると、補欠入学の書類が入っていました。この嬉しかった気持ちは、今でも覚えています。

明治大学に進学してからは、サークル活動に打ち込むのではなく、海外を旅行していました。特に、中東が好きで、シリア、ヨルダン、レバノン、トルコ、イエメンを旅行したことは良い思い出です。

その後、中央大学の大学院に進学し、司法試験に受かり、縁あって立川で弁護士をすることになりました。

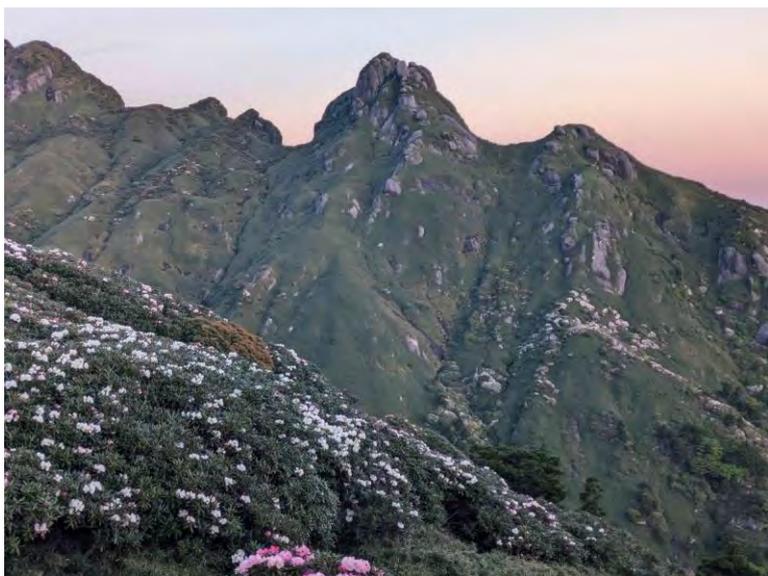
## ○母親が後輩に

今から約 5 年前、母親が司法試験に合格しました。当時、66 歳、法務省の発表では、その年の最高齢の合格者でした。子育て、介護がすべて終わったということでの再挑戦でした。弁護士としては、母親が後輩にあたることになります。弁護士としての事件処理の「技術」としては、私の方が経験豊富で教えることも多いのですが、人間としての「味」では負けます。

夫からの暴力で苦しむ女性に寄り添う姿や、その子供から懐かれる様子には、私では及ばないところがあります。女手一つで子供を育てた経験があるからこそ、人間としての「味」が出るのではないかと思います。



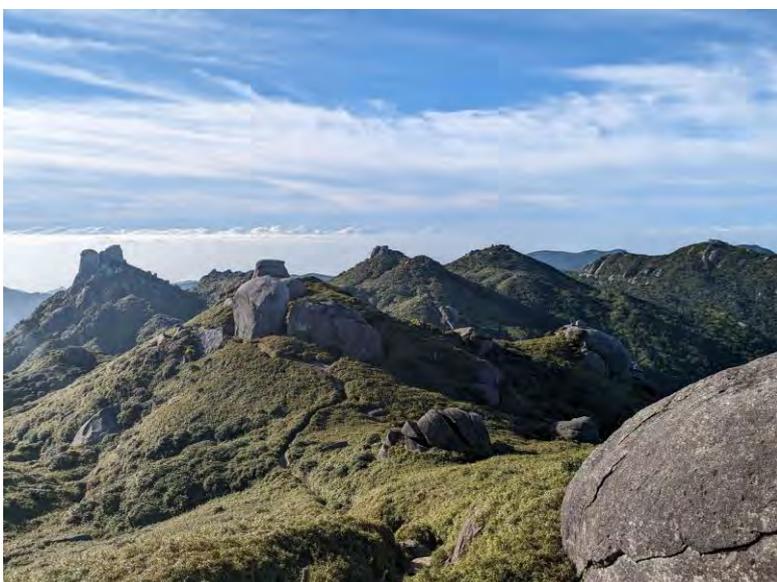
# Photo Gallery 小金井地域支部 岩崎政典 (平成3・政経)



屋久島永田岳 石楠花



屋久島 石楠花



屋久島宮之浦岳近辺巨石群



長野県菅平根子岳



長野県菅平四阿山



北海道後方羊蹄山